

# 淨土宗日常勤行式

←のりしろ 裏面のり 表紙に付ける

## 一、香偈

願我身淨如香爐  
ねんねんばんじょうかいじょうこうろ

願我心如智慧火  
がんがしんによちえか

供養十方三世仏  
くようじっぽうさんぜぶ

念念焚燒戒定香  
ねんねんぼんじょうかいじょうこうやう

## 二、三宝礼

一心敬礼十方法界常住仏  
いつしんきょうりいじっっぽうほうかいじょうじゅうぶつ

一心敬礼十方法界常住法  
いつしんきょうりいじっっぽうほうかいじょうじゅうほう

一心敬礼十方法界常住僧  
いつしんきょうりいじっっぽうほうかいじょうじゅうそう

## 三、四奉請

奉請十方如來入道場散華樂  
ほうぜいしほうじよらいじとうちょうさんからく

奉請釈迦如來入道場散華樂  
ほうぜいせきやじよらいじとうちょうさんからく

奉請彌陀如來入道場散華樂  
ほうぜいびたじよらいじとうちょうさんからく

(3)

(2)

(1)

(のりしろ)

奉請觀音勢至諸大菩薩入道場散華樂

四、懺悔偈

我昔所造諸惡業  
從身語意之所生

一切我今皆懺悔

五、十念

六、開經偈

無上甚深微妙法  
我今見聞得受持

願解如來真實義

七、四誓偈

我建超世願  
誓不成正覺  
普濟諸貧苦  
誓不成正覺

必至無上道  
我於無量劫  
不為大施主  
我至成仏道

(6)

(5)

(4)

(のりしろ)

名声超十方

究竟靡所聞

誓不成正覺

離欲深正念

淨慧修梵行

志求無上道

為諸天人師

神力演大光

普照無際土

消除三垢冥

廣濟衆厄難

開彼智慧眼

滅此昏盲闇

閉塞諸惡道

通達善趣門

功祚成滿足

威曜朗十方

日月戢重暉

天光穩不現

為衆開法藏

廣施功德寶

常於大衆中

說法師子吼

供養一切仏

具足衆德本

願慧悉成滿

得為三界雄

如仏無礙智

通達靡不照

願我功慧力

等此最勝尊

斯願若剋果

大千應感動

虛空諸天人

當雨珍妙華

(9)

(8)

(7)

## 八、本誓偈

弥陀本誓願

極樂之要門

定散等回向

速証無生身

## 九、十念

十、元祖法然上人御遺訓

一枚起請文

唐土我朝に、もろもろの智者達の、沙汰し申さるる觀  
念の念にもあらず。また學問をして、念のこころを悟  
りて申す念佛にもあらず。ただ往生極樂のためには、

南無阿彌陀仏と申して、うたがいなく往生するぞと思  
い取りて申す外には別の仔細候わず。ただし三心四修  
と申すことの候うは、皆決定して南無阿彌陀仏にて往  
生するぞと思ううちにこもり候うなり。この外に奥ふ  
かき事を存ぜば、二尊のあわれみにはずれ、本願にも

(のりしろ)

され候うべし。念佛を信ぜん人は、たとい一代の法をよくよく学すとも、一文不知の愚鈍の身になして、尼入道の無智のともがらに同じうして、智者のふるまいをせずしてただ一向に念佛すべし。

証のために両手印をもつてす。

淨土宗の安心起行この一紙に至極せり。源空が所存、この外に全く別義を存ぜず、滅後の邪義をふせがんがために所存をしるし畢んぬ。

建暦二年正月二十三日

大師在御判

(14)

## 十一、撰益文

光明遍照

十方世界

念佛衆生

撰取不捨

## 十二、念佛一會

(15)

(13)

(のりしろ)

### 十三、總回向偈

願以此功德  
同發菩提心

平等施一切  
往生安樂國

### 十四、十念

十五、總願偈

衆生無邊誓願度  
法門無盡誓願知  
自他法界同利益

煩惱無邊誓願斷

無上菩提誓願証  
共生極樂成仏道

### 十六、三唱禮

南無阿彌陀佛  
南無阿彌陀佛  
南無阿彌陀佛

南無阿彌陀佛  
南無阿彌陀佛  
南無阿彌陀佛

南無阿彌陀佛  
南無阿彌陀佛  
南無阿彌陀佛

(のりしろ)

十七、送仏偈

請仏隨縁還本国

願仏慈心遙護念

普散香華心送仏

同生相勸尽須來

十八、十念

編集 淨土宗和歌山教区教化団

令和元年十二月 第二版

←おもて表紙の裏に貼る

【表紙ラベル】

